



前進座名古屋特別公演

主催 中日新聞社・前進座

林与一 特別出演



雪間草

利休の娘お吟ぎん

海音寺潮五郎 原作「天正女合戦」より
朱海青 脚本／鈴木龍男 演出
【ゆきまそう】

秀吉はなぜ、利休に切腹を命じたのか...？

2024年

11月17日(日)14:00開演・18日(月)11:00開演

Niterra 日本特殊陶業市民会館 ビレッジホール



前進座名古屋特別公演

主催 中日新聞社・前進座

ゆきまそう

雪間草

利休の娘お吟

美術 佐々波雅子
照明 松本由美
音楽 日高哲英
効果 横山あさひ
舞台監督 中橋耕史
制作 補綴厚子
柳澤圭子

秀吉、利休、三成、ねね、茶々、
そして利休の娘お吟…。
守るべきもののため命をかけた
レジェンドたちの願いは今も…？
「前進座×林与一」
いざ本格時代劇の世界へ！

【ものがたり】

天下統一を目前にした豊臣秀吉は、千利休を茶頭（茶の湯を司る役）、側近として重用、厚い信頼を寄せていた。利休の娘・お吟は茶の湯の才高く、大坂城内で北政所（秀吉の正室ねね）や大政所（秀吉の母なか）のために工夫を凝らしたもてなしをして、皆を魅了する。喜んだねねは、お吟を茶の湯の指南役にとり立てる。しかし、秀吉もまた密かにお吟の美貌に目をつけていた。

一方、利休の弟子・宗三はお吟に想いを寄せていることを告白する。宗三を好ましく思いつつも、最初の結婚に破れ、茶の湯ひとすじに生きたいと願うお吟の心は揺れ動く。

秀吉の寵愛する側室茶々（淀殿）が懷妊。秀吉は大陸までも支配して、我が子とその王にさせんと、唐御陣（朝鮮出兵・大陸侵出）へとめり込む。秀吉の弟・秀長やねねらが必死に止めるのにも耳を貸さず、秀吉は利休とも対立を深めていく。命をかけた利休の説得に秀吉は…。

タイトル「雪間草」の由来

花をのみ待つらむ人に山里の

雪間の草の春をみせばや （藤原家隆、十二世紀）

（春といえば、花々が咲く事だけを待つ人に、山里に積もった雪の間に芽吹く若草にこそ、春がすでにそこにあることを見せたいものだ）
利休が「侘び茶」の理想の精神をあらわす歌、として示したとされています。



〈石田三成〉
新村宗二郎



〈京極竜子〉
上沢美咲



〈おきく〉
横澤寛美



〈豊臣秀吉〉
嵐芳三郎



〈山下宗三〉
河原崎國太郎



〈お吟〉
浜名実貴



〈北政所ねね〉
西川かずこ



〈大政所なか〉
前園恵子



〈豊臣赤長〉
藤田勇貴（助演）



〈茶々〉
松宮美菜



〈おちよぼ〉
中野里咲



〈千利休〉
林与一

林与一（特別出演）1942年大阪府出身。俳優・舞踊家。曾祖父は歌舞伎役者の初代中村鴈治郎。1958年大阪歌舞伎座で初舞台を踏む。「人形佐七捕物帳」「必殺仕掛人」など、時代劇スターとして様々な作品で活躍。舞台では、自身の座長公演のほか、山本富士子・山田五十鈴・森光子ら数多くの女性座長の相手役を勤め、特に美空ひばりとは黄金コンビとして人気を集めた。現在は、舞台出演のかたわら、講演会やトークショーなど全国で開催。2024年3月、第45回「松尾芸能賞・功労賞」受賞。



2024年

11月17日(日)14:00開演・18日(月)11:00開演

名古屋・金山 Niterra 日本特殊陶業市民会館 ビレッジホール（旧名古屋市民会館）

【観劇料金】

A 席 8,500 円を会員割引料金 7,500 円 さらに共済会員割引料金 6,500 円にて提供します。講演は 2 日間ですが、昭天瑞民商のチケットは 17 日(日)のみとなっております。また、チケット販売の締切は 10 月 31 日(木)までです。

無くなり次第終了となりますので、お早めにお買い求め下さい。

チケット販売 TEL:052-889-6611 FAX:052-889-6610 まで